

北朝鮮の経済社会開発の現状と今後 ～北朝鮮と北東アジアの経済社会開発に関する研究・国際交流事業～

テレビのワイドショーでは、芸能ネタやスポーツネタに加えて、国際ネタでは北朝鮮に関するテーマが取り上げられるケースが多いようです。ニュースや新聞とは異なる視点で話が盛り上がり、こうした番組の視聴者が専門家以外では最も北朝鮮に詳しい人たちのかもしれません。とはいうものの、北朝鮮に関して私たちが接する情報の多くは日本人から見れば異質な動き・現状や各種施策の失敗、あるいは政治、軍事に関するものであり、北朝鮮の全体的な姿はあまり報道されていないようにも思われます。そこで、(一財)国際開発センターでは研究・国際交流事業の一環として、朝鮮半島・北朝鮮問題の有識者の方々のご協力を得て、2011年度から3年間、「北朝鮮と北東アジアの経済社会開発に関する研究・国際交流事業」を実施しました。

北朝鮮は日本と地理的に近いだけでなく、1910～45年の間、日本統治下において産業振興・鉱業開発やインフラ整備などの本格的な近代化に着手したという他国にはない歴史を持っており、日本とのつながりが極めて強い国です。独立後、産業開発が順調に進まなかったこともあり、現在の産業配置や工場(設備)が日本統治下時代と大きく変わっていないことは、今も日本統治の遺産が産業面で大きな影響を与えていることを示しています。また、近年「アジア最



北朝鮮シンポジウムの様子

後のフロンティア」としてミャンマーが注目されていますが、北朝鮮も同様の可能性を秘めていると言っても過言ではなく、「真のアジア最後のフロンティア」と言える存在です。日本のマスコミで取り上げられることが必ずしも多くない経済社会開発の観点から、北朝鮮の現状と今後を学び、この問題に関心を持つ内外の方々との交流を行うことはとても有益なことと考えられます。

日本人が実際に北朝鮮を訪れ現状を把握することは難しく、また経済社会開発に関する資料の多くはハングルであることから、効率的に情報収集や分析を行うことは困難でしたが、「経済社会開発計画・戦略」「資源開発」「国有企業」「対外経済関係」など様々なテーマに関して有識者をお招きし、定期的な会合・勉強会を開催することを通して、北朝鮮の経済社会開発の現状と様々な動きを知ることができました。また、中国から北京大学の金景一先生、遼寧社会科学院の金哲先生をはじめ有識者の方々に参加を得て、毎年度末には計3回のシンポジウムを開催し、北朝鮮に関する有識者のご意見や様々な情報などを直接ご紹介する機会を設けました。これには予想を超える多くの方の参加を得ることができ、この問題に対する高い関心を確認することができました。さらに、IDCJがこの事業を行っていることを知られた方々から様々なお問合せを頂いたほか、最終年度には北京及び瀋陽において、中国の北朝鮮専門家の方々や北朝鮮の経済社会開発と周辺国の関与の在り方について意見交換をする機会を得ました。その結果、内外の幅広い関係者の方々とのネットワークを構築することができたことは、この事業の大きな成果のひとつであったと考えています。

本事業はここでいったん終了となりますが、北朝鮮の経済社会開発について研究・交流する機会の重要性を多くの方からご指摘頂いたことを踏まえて、今後もより良い形で関係事業の実施を検討していきたいと考えています。是非、皆様からのご意見等を頂戴できましたら幸いです。なお、この事業において取りまとめたレポートはIDCJのホームページ (<http://www.idcj.or.jp/activities/ir.html>) に公表されていますので、ぜひご一読ください。

(文責：国際開発センター 主任研究員 西野 俊浩)